

## 新理事長挨拶

理事長 佐藤和明

亀田前理事長を引き継ぎまして本水倶楽部理事長に選任されました佐藤です。よろしくお願いいたします。私は下水道の現役時代は土木研究所、当時はまだ建設省土木研究所という時代でしたが、研究、技術



開発部門に席を置いておりました。下水道の歴史はインダス古代文明や、ギリシャ・ローマ時代に遡ることができますが、下水処理を伴った形の近代下水道の原型は、19世紀欧州で確立されたものと思います。水倶楽部では、これまで亀田前理事長の下で活性汚泥法生誕100周年に因んでいくつかの行事を行ってきました。現在、地球環境や資源循環の観点から、汚泥やリンの循環利用や窒素の処理が、下水道システムに課された新たな課題として認識されるようになってきましたが、こうした21世紀の新たな問題も活性汚泥処理を基本とする下水道システムで課題解決していく方法はあるようです。エネルギー回収を念頭に置いたディスポーザ導入等の施策が上記の21世紀課題の解決にどう関係してくるのか、水倶楽部ではこうした課題に引き続き果敢に取り組んで参りたいと思います。

以上の課題に加えて、どのような視点を基軸において水倶楽部の活動を継承していくのか、私ども新執行部に課せられた課題は大きなものであります。今回私と同じく新たに選任されました阿部副理事長、押領司事務局長と手を携え、理事、監事の皆さんの応援も得ながら、今後の水倶楽部の運営に励みたいと思います。

下水道事業ならびに下水道技術について、広く国民の皆様にも正しく理解していただけるよう、そして下水道部局に身を置かれているとくに若い世代の皆さんにとってより魅力ある職域となるよう、ということを中心に頭に置きながら、会員の皆様と

ともに楽しい水倶楽部活動を行っていきたくと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2017 年度総会報告

理事・事務局長 押領司重昭

通常総会が、6月23日（金）測量地質健康保険会館大会議室（東京都豊島区西池袋）において開催されました。

審議事項は、以下のとおりです。

1. 平成28年度事業報告、収支決算
2. 平成29年度事業計画（案）、収支予算（案）
3. 役員の選任

正会員数88名のうち、委任状を含め65名の出席をいただきました。

会議冒頭の挨拶で亀田理事長は、この1年間の活動を振り返り、「医療と下水道」、「これからの下水道管理、管理運営に求められるもの」及び「その後のディスポーザの普及と新たな動き」といった幅広いテーマでの研究集会やグループセミナーを開催したこと、他の機関との交流として、「下水道展'16名古屋NP0コーナー及び水環境ひろば」、「埼玉県荒川・下水道フェスタ2016」などへの参加や出展と数多くの他行事へ参画したこと、また、会員が高齢化しており、若返りが必要であることに触れられ、本総会を持って理事長を退任する意向を表明されました。

続いて議事に入り、28年度事業報告、収支決算が説明され、承認されました。引き続き、29年度事業計画（案）、収支予算（案）が説明され、承認されました。

第3号議案「役員の選任」については、任期満了に伴い亀田泰武理事長、清水治副理事長、田野嘉男理事（事務局長）、山木幸夫理事、藤原昇監事が退任し、新たに大貫廣美氏、神山真一氏、竹石和夫氏が理事に、渡辺清風氏が監事に選任されました。

総会閉会后に、新体制による理事会が開催され、理事長に佐藤和明氏、副理事長に阿部恭二氏が選定されました。また、事務局長に押領司、事務局長補佐に神山氏が指名されました。

この後、講演会が開催され、本会理事長の亀田氏から「西洋庭園水景の由来」と題し、西洋庭園と噴水などの水景の歴史に

ついて、興味深いお話をさせていただきました。

5時から近くに会場を移し、来賓として国土交通省下水道部長森岡泰裕様、日本下水道事業団理事長辻原俊博様、日本下水道協会理事長曾小川久貴様に参加していただき、多数の参加者で懇親を深めることができました。

最後になりますが、この度、事務局長の任を仰せつかりました。本会の円滑な運営に努めてまいりますので、会員の皆様のご協力、ご指導の程、よろしく願い申し上げます。

## 2017 年度活動報告

### 多摩川河口干潟見学会報告 (5月27日木曜日)

前理事長 亀田泰武

世話役をお願いしている生き活き東京湾研究会の大野さん手配の船に乗せてもらい、天空橋近くから出航。水倶楽部は4人参加。前日が雨で心配されたが晴れで、新月翌日で干潮が12:00の-8cm。

船を下り、熊手を入れ始めたが、砂や泥ばかり。たまに引っ



現場は大干潮でも水面が残る



網袋の中、ハマグリ9、  
ホンビノス3、サルボウ1

今回、生物相はもっと貧相になっていて、シオフキもほとんど見られず、アサリはたまに網袋の網をすり抜ける小さな稚貝がいる程度。たまに大きな塊に遭遇し、それがハマグリとホンビノスであった。参加者皆けっこうハマグリを取ることができ、自分は8cm、110gくらいの大きなハマグリ2個、中7個と

かかるのが小枝。大きな石のようなものがあり、それは大きなホンビノス(9.8cm 230g)であった。

多摩川河口干潟見学会は、2004、2008年で3回目になる。生物相が大変貧弱なのは同じであるがけっこう変わってきている。2004年ではマテ貝とバカ貝、2008年ではシオフキがある程度のほかアサリ、ホンビノスが見られた。

これまで幻の存在であったので、潮干狩りというより宝探しのような感じであった。

生物は小さなハゼはいたが、他は小さいマメコブシガニをたまに見る程度。小さい気泡が砂から出てくるところがあつてもメタンのよう。嫌気的な感じの場所がところどころあつたが全体的には底質の無機化が進んでいるようであった。

潮干狩りに多数の人が来ていたのも驚きで、過去は8月ということもあつたろうが誰もいなかった。他の人を見ていると取れている量が少なく、昨年くらいから結構いるということが伝わって皆が来るようになり取り尽くされつつあるように思えた。

中大の厚い殻の貝類が多いことは、少数の稚貝が着底後、流されずに生き残った年があつたためと思われる。千葉県ではハマグリ稚貝を放流しているそうである。

## 新役員自己紹介

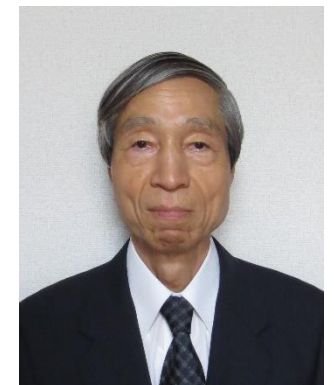
### 神山理事

このたびの総会で理事に選任されました神山と申します。私は埼玉県職員として下水道事業に23年間携わり、現在はメタウォーター(株)に勤務しております。前山木理事からバトンを渡された形となりました。日本の下水道整備も概成を迎えつつあり、下水道の大切さが市民から遠のいてしまうのではないかと危惧しています。これからは日常の暮らしの中に下水道を意識してもらえるような工夫が必要だと思います。以前からNPOには関心がありましたので、行政の枠にとらわれない活動を目指し頑張りたいと思います。どうぞ皆さんよろしくお願いいたします。



### 竹石理事

理事に就任することになりました竹石です。これまでは、シンポジウム等の行事に参加させていただくだけで、何の役割も果していなかったもので、少しはお役に立てればと思っていますが、さて何をしたらよいか。これまで取組



みのできていない分野で少しでも貢献できたらとも思いますが、かといって独りでは何もできず、どうしたものかと戸惑っているところです。

会員および理事の皆様と意見交換をする中で、倶楽部として取組むべき課題を見出し、活性化に繋がる活動ができればと思っています。よろしくお願い致します。

## 渡辺監事

6月の通常総会で監事に選任されました。お役に立つか解りませんが、宜しくお願いします。

本籍 京都市左京区  
(生まれ 山口市)

年齢 70代です

現住所 東京都 杉並区和泉にて愚妻と二人暮らしです。

趣味 読書とハイキング

職歴 (株)東京設計事務所入社50年です。退職後、現在は相談役です。勤務地は千代田区霞が関です。

専門は下水道部門技術一筋の職人です。

今まで、21世紀水倶楽部の活動は殆どしていません。近況として最近2年間かけて「クライブ・カッスラー (海洋冒険小説)」の著作を収集、読破しました。



## 編集幹事のあと整理

- 巻頭文は新理事長の佐藤和明氏の就任挨拶。新副理事長の阿部恭二氏には次号掲載をお願いしています。
- 押領司新事務局長・理事には通常総会の報告をいただきました。
- 亀田会員(前理事長)には五月の東京湾干潟見学会の報告文。今年の見学は多摩川河口で、過年実施したときとの比較もされています。
- 新役員自己紹介は四名のうち、神山、竹石両理事、渡辺監事の三方です。大貫理事は次号。
- 会員日より、今号は投稿がありませんでした。
- 会員日よりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月